

高岡市万葉歴史館秋の特別企画展 池田弥三郎の世界（令和6年（2024）9月4日（水）～12月2日（日））

	コーナー名	資料名	点数	年代	形態
1	あの人この人	池田弥三郎肖像		1 年代不明	写真
2	あの人この人	琉球人座楽并踊之図（複製）		1	複製品
3	あの人この人	雑誌『ひと』10号		1 昭和10年11月	書籍
		現在では入手困難な雑誌。慶應義塾大学の国文科生が多く執筆。池田はもとより井筒俊彦・戸板康二も文章を載せている。てんぶら屋の広報誌ながら同人雑誌の観を呈している。「天金」は、1864年（元治元年）創業、1970年（昭和45年）に閉店した東京銀座の天ぶら屋。江戸で一番うまいと評判の天ぶら屋で、徳川慶喜も通ったという。			
4	あの人この人	加藤守雄「池田弥三郎の近業」原稿		1 昭和30年8月掲載	自筆原稿
		『新文明』（5巻8号・昭和30年8月・新文明社）掲載。加藤守雄は国文学科の同級生。折口信夫を師とする生涯の友による評論。池田弥三郎の第一論文集『芸能』（昭和30年・岩崎書店）についての評である。折口の打ち立てた芸能研究の複雑さを池田が平明な文章で手ざわよく秩序づけ、観客論を主とした芸能の論理を発掘したことを評価している。			
5	あの人この人	加藤守雄からのはがき		1 昭和47年2月16日消印	はがき
		昭和47年2月16日消印。親友ならではの忌憚ない言葉で綴られている。			
6	あの人この人	『三田文学』96号		1 平成21年2月1日	書籍
		第88巻第96号冬季号 平成21年2月1日 ※『三田文学』…慶応義塾大学文学部の文芸雑誌。永井荷風らが創刊。反自然主義で耽美的色彩が強い。			
7	あの人この人	『蘇る琉球芸能 江戸上り』		1 平成23年	DVD
		平成23年に東京日本橋三越劇場で復元公演された琉球芸能「江戸上り」の様子を追ったもの。			
8	あの人この人	弥三郎ぶし		1 昭和46年	印刷物
		銀婚式のパログラムより 作詞：楠本憲吉 作曲：服部良一 昭和46年2月15日 芝パークホテル 池田57歳			
9	あの人この人	新弥三郎節の原稿		1 年代不明	印刷物
		慶應義塾大学同窓で俳人・随筆家の楠本憲吉が作詞、服部良一作曲「弥三郎節」に対して、「新」として国語学者金田一春彦が作詞。池田の慶應大学退職記念祝賀会で配布。その受付を担当した藤原茂樹が保管。			
10	あの人この人	戸板康二『わが交遊記』		1 昭和55年8月25日	書籍
		先師・先輩・友人について語ったもので、第2章「わが交友」の冒頭に池田は登場、続いて黒柳徹子について語られている。			
11	あの人この人	『わが戦後』		1 昭和52年10月30日	書籍
		池田は執筆時60歳。3通の手紙を紹介する。本当は4通だったが、最初の1通が手違いで届かなかった。			
12	あの人この人	池田弥三郎家族宛の軍事郵便		7 昭和16年から20年	はがき
		出征中（昭和16～20年）の弥三郎からのハガキ。			
13	あの人この人	池田弥三郎兄の延太郎宛の軍事郵便		2 昭和16年から21年	はがき
		出征中の弥三郎からの手紙。満州国ハルピンのロシア式教会聖ソフィア大聖堂が描かれている。			
14	書簡コーナー	学生時代の弥三郎写真		1 昭和12年	複製写真
		※左から、中山要・池田弥三郎・安藤蕃。池田弥三郎 23歳			
15	書簡コーナー	『銀座百点』演劇合評会写真		1 昭和38年2月	複製写真
		池田弥三郎 49歳。円地文子、戸板康二、久保田万太郎、池田弥三郎、車谷弘ら。			
16	書簡コーナー	「この人この道」写真		1 昭和38年11月14日	複製写真
17	書簡コーナー	守随憲治からの手紙		1 消印不明	封書
18	書簡コーナー	吉川幸次郎からの手紙		1 消印不明	封書
19	書簡コーナー	金田一春彦からの手紙		1 消印不明	封書
20	書簡コーナー	伊藤博からの手紙		1 消印不明	封書
21	書簡コーナー	谷川健一からの手紙		1 消印不明	封書
22	書簡コーナー	本田安次からの手紙		1 消印不明	封書
23	書簡コーナー	郡司正勝からの手紙		1 消印不明	封書
24	書簡コーナー	小西甚一からの手紙		1 消印不明	封書
25	書簡コーナー	町田佳聲からの手紙		1 消印不明	封書
26	書簡コーナー	久松潜一からの手紙		1 消印不明	封書
27	書簡コーナー	西山松之助からの手紙		1 消印不明	封書
28	書簡コーナー	岸俊男からの手紙		1 消印不明	封書
29	書簡コーナー	江藤淳からの手紙		2 消印不明	封書
30	書簡コーナー	富田正文からの手紙		1 消印不明	封書
31	書簡コーナー	井本農一からの はがき		1 昭和56年9月10日	はがき
32	書簡コーナー	野間光辰からの はがき		1 昭和56年9月12日	はがき
33	書簡コーナー	宮田登からの はがき		1 昭和56年9月20日	はがき
34	書簡コーナー	三谷栄一からの はがき		1 昭和56年9月12日	はがき
35	書簡コーナー	大林太良からの はがき		1 昭和?年9月7日	はがき
36	書簡コーナー	梅棹忠夫からの はがき		1 昭和56年10月8日	はがき
37	書簡コーナー	上田正昭からの はがき		1 昭和56年9月21日	はがき
38	書簡コーナー	市古貞次からの はがき		1 消印不明	はがき
39	書簡コーナー	土橋寛からの はがき		1 昭和56年9月9日	はがき
40	書簡コーナー	大野晋からの はがき		1 消印不明	はがき
41	書簡コーナー	家永三郎からの はがき		1 昭和48年5月6日	はがき
42	書簡コーナー	大養孝からの はがき		1 昭和51年6月11日	はがき
43	書簡コーナー	見坊豪紀からの はがき		1 昭和55年10月25日	はがき
44	書簡コーナー	柴田武からの はがき		1 昭和55年10月24日	はがき
45	書簡コーナー	玉上琢弥からの はがき		1 昭和48年5月5日	はがき
46	書簡コーナー	中西進からの はがき		3 昭和48年6月5日、昭和50年11月14日、昭和56年10月9日	はがき

高岡市万葉歴史館秋の特別企画展 池田弥三郎の世界（令和6年（2024）9月4日（水）～12月2日（日））

	コーナー名	資料名	点数	年代	形態
47	書簡コーナー	清水好子からのはがき	1	昭和55年10月29日	はがき
48	書簡コーナー	河盛好蔵からのはがき	1	昭和55年9月11日	はがき
49	書簡コーナー	外間守善からのはがき	1	消印不明	はがき
50	書簡コーナー	犬養孝からの手紙	1	消印不明	封書
51	書簡コーナー	高村象平からのはがき	1	昭和46年2月15日	はがき
52	書簡コーナー	高村象平からの手紙	1	消印不明	封書
53	書簡コーナー	高橋義孝からの手紙	2	消印不明	封書
54	書簡コーナー	吉田小五郎からの手紙	2	消印不明	封書
55	書簡コーナー	鈴木孝夫からの手紙	1	消印不明	封書
56	書簡コーナー	厨川文夫からの手紙	1	消印不明	封書
57	書簡コーナー	桑原三郎からの手紙	2	消印不明	封書
58	書簡コーナー	坂本朝一からの手紙	1	消印不明	封書
59	書簡コーナー	坂本朝一からのはがき	3	不明、不明、昭和56年3月23日	はがき
60	書簡コーナー	江崎真澄からのはがき	1	昭和36年8月7日	はがき
61	書簡コーナー	小島政二郎からの手紙	1	消印不明	封書
62	書簡コーナー	江藤淳からの手紙	1	消印不明	封書
63	書簡コーナー	富田正文からの手紙	1	消印不明	封書
64	書簡コーナー	佐藤朔からのはがき	3	不明、昭和56年9月14日、昭和49年1月23日	はがき
65	書簡コーナー	池田潔からのはがき	1	消印不明	はがき
66	書簡コーナー	高橋清治郎からのはがき	1	消印不明	はがき
67	書簡コーナー	安藤蕃からのはがき	1	昭和43年2月15日	はがき
68	書簡コーナー	堀内敬三からのはがき	1	昭和48年4月25日	はがき
69	書簡コーナー	服部禮次郎からのはがき	2	昭和55年10月30日、昭和48年2月2日	はがき
70	書簡コーナー	服部禮次郎からの手紙	1	消印不明	封書
71	書簡コーナー	角川源義からの手紙	2	消印不明	封書
72	書簡コーナー	水上勉からの手紙	1	消印不明	封書
73	書簡コーナー	池波正太郎からの手紙	2	消印不明	封書
74	書簡コーナー	辻邦生からの手紙	1	消印不明	封書
75	書簡コーナー	丹羽文雄からの手紙	1	消印不明	封書
76	書簡コーナー	矢代静一からの手紙	1	消印不明	封書
77	書簡コーナー	中野重治からの手紙	1	消印不明	封書
78	書簡コーナー	円地文子からの手紙	1	消印不明	封書
79	書簡コーナー	有吉佐和子からの手紙	1	消印不明	封書
80	書簡コーナー	宇野信夫からの手紙	1	消印不明	封書
81	書簡コーナー	遠藤周作からの手紙	1	消印不明	封書
82	書簡コーナー	山口瞳からの手紙	1	消印不明	封書
83	書簡コーナー	山口瞳からのはがき	1	消印不明	はがき
84	書簡コーナー	荒垣秀雄からのはがき	1	消印不明	はがき
85	書簡コーナー	堀口大学からのはがき	1	消印不明	はがき
86	書簡コーナー	宮柊二からの手紙	1	消印不明	封書
87	書簡コーナー	木俣修からのはがき	2	消印不明	はがき
88	書簡コーナー	土岐善麿からのはがき	1	消印不明	はがき
89	書簡コーナー	富安風生からのはがき	1	消印不明	はがき
90	書簡コーナー	清崎敏郎からの手紙	1	消印不明	封書
91	書簡コーナー	水原秋桜子からの手紙	1	消印不明	封書
92	書簡コーナー	吉田正からのはがき	1	消印不明	はがき
93	書簡コーナー	森繁久彌からの手紙	1	消印不明	はがき
94	書簡コーナー	千宗室からの手紙	1	消印不明	封書
95	書簡コーナー	澤瀉屋からの手紙	1	消印不明	封書
96	書簡コーナー	中村歌右衛門からの手紙	1	消印不明	封書
97	書簡コーナー	古川緑波からの手紙	1	消印不明	封書
98	書簡コーナー	加藤道子からの手紙	1	消印不明	封書
99	書簡コーナー	三國一朗からの手紙	1	消印不明	封書
100	書簡コーナー	堀田善衛からのはがき	1	消印不明	はがき
101	書簡コーナー	白井吉見からのはがき	3	昭和38年7月13日、昭和38年10月30日、不明	はがき
102	書簡コーナー	斎藤茂太からのはがき	3	不明、不明、昭和55年8月23日	はがき
103	書簡コーナー	木下順二からのはがき	1	消印不明	はがき
104	書簡コーナー	芥川比呂志からのはがき	1	昭和55年9月16日	はがき
105	書簡コーナー	安藤鶴夫からのはがき	1	昭和53年8月28日	はがき
106	書簡コーナー	石坂洋次郎からのはがき	2	昭和48年1月31日、昭和48年4月7日	はがき
107	書簡コーナー	永井龍男からのはがき	1	消印不明	はがき
108	書簡コーナー	竹西寛子からのはがき	1	昭和55年8月28日	はがき
109	書簡コーナー	佐多稲子からのはがき	1	昭和55年10月24日	はがき
110	書簡コーナー	亀井勝一郎からのはがき	1	昭和37年1月8日	はがき
111	書簡コーナー	阿川弘之からのはがき	1	昭和56年9月4日	はがき
112	書簡コーナー	武智鉄二からのはがき	1	昭和38年8月28日	はがき
113	書簡コーナー	白井吉見からのはがき	1	昭和34年12月3日	はがき
114	書簡コーナー	伊馬春部からのはがき	2	昭和41年9月？日、昭和45年9月22日	はがき
115	書簡コーナー	由紀さおりからの手紙	1	消印不明	封書
116	書簡コーナー	永六輔からの手紙	1	消印不明	封書
117	書簡コーナー	一龍齋貞鳳からの手紙	1	消印不明	封書
118	書簡コーナー	なかにし礼からのはがき	1	消印不明	はがき
119	書簡コーナー	徳川夢声からのはがき	1	消印不明	はがき
120	書簡コーナー	フランク永井からの手紙	1	消印不明	封書
121	書簡コーナー	フランキー堺からの手紙	1	消印不明	封書
122	書簡コーナー	小沢昭一からの手紙	1	消印不明	封書

高岡市万葉歴史館秋の特別企画展 池田弥三郎の世界（令和6年（2024）9月4日（水）～12月2日（日））

	コーナー名	資料名	点数	年代	形態
123	富山に刻んだ最後の情熱	特別講演「幸を運ぶ風」講演写真	1	昭和56年11月1日	写真
		昭和56年11月1日 主催：富山地学会・富山県・新湊市・富山新聞社他 ※講演録は、精神開発叢書88『幸を運ぶ風』（富山県教育委員会編・昭和58年2月刊・非売品）所収。			
124	富山に刻んだ最後の情熱	週刊朝日「江戸っ子教授池田弥三郎の定年後設計」	1	昭和55年2月8日号	書籍
		『週刊朝日』昭和55年2月8日号 新設の洗足学園魚津短期大学のため、池田は6人を連れて赴任。大学広報のため連日テレビにも出演して「魚津移住計画」を語り、メディアを賑わした。			
125	富山に刻んだ最後の情熱	魚津時代の池田弥三郎のスケジュール帳	1	昭和55年	複製
		中沖豊富山県知事との対談日時も記入されている。			
126	富山に刻んだ最後の情熱	『池田弥三郎北陸を語る』	1	昭和58年	書籍
		昭和58年1月 読売新聞北陸支社社刊。同社の発刊20周年を記念して企画された対談記録14回分。富山の料理や家、酒、米、日本海、伝説、北前船、立山など、地元の中沖豊富山県知事をはじめとする文化人との対談。			
127	富山に刻んだ最後の情熱	『魚津だより』	1	昭和57年4月	書籍
		漁気楼など魚津の情景が語られている富山の魅力を伝えるエッセイ。池田の人柄がしのばれる著作。刊行した年の7月に池田は逝去。			
128	富山に刻んだ最後の情熱	『魚津だより』構成案	1	年代不明	複製
		最晩年の著書『魚津だより』構成案。 2ページ目に「とやまの七不思議」の素案もメモとして記入されている。			
129	富山に刻んだ最後の情熱	始球式の写真	1	昭和56年6月	写真
		昭和56年6月、池田弥三郎は体調不良を患えて、魚津短大軟式野球チーム「フィッシャーズ」と共に神戸遠征。当時神戸山手女子短期大学専任講師だった藤原茂樹率いる神戸山手女子短大「マンヨーズ」と対戦。その始球式の様子。第一試合は魚津の大勝。やがてこの対抗戦が現在も続く「全日本大学女子野球選手権大会」に発展する。池田の始球式での一投が、女子野球の新たな船出となった。 平成14年魚津短大閉校後も、魚津市民の力によって大会は継続され、魚津は「女子野球の聖地」となり、令和6年も8月下旬に魚津市で開催、ライブ配信される。MVP選手には、魚津と神戸との女子対抗戦のために池田がデザイン特注でノリタケにつくらせた「池田杯」が授与され、現在も「池田（彌三郎）杯」として受け継がれている。写真は、当時第2回勝者の山手女子短大に贈られたつくられたばかりの池田杯。			
130	富山に刻んだ最後の情熱	季刊『北の声』	1	昭和57年1月	書籍
		季刊『北の声』3（昭和57年1月・七尾城文化事業団） 折口信夫と初めて七尾に来た時のことや、たぶの木、あいの風、麦屋節、日本海の渦のことなど、昭和56年9月21日の七尾で行った講演を収録。			
131	富山に刻んだ最後の情熱	池田文庫設立一周年テレフォンカード	1	昭和61年	書籍
		鮎蒲で有名な魚津の河内屋社長河内一雄氏が、昭和60年に富山駅前店を出店した際、池田弥三郎を偲んで併設した文庫。池田の全著作や貴重な資料などを自由に閲覧できた。かつて城址大通り沿いのブレイン校ビルにあった。			
132	富山に刻んだ最後の情熱	エッセイ「水や空」原稿		昭和57年5月	複製品
		『婦人生活』36巻5号（昭和57年5月・婦人生活社） 亡くなる4ヶ月前に執筆された美しいエッセイ。魚津で2度目の冬を経験した池田が、謡曲「八島」等を紹介しながら、家から眺める海と空の魅力を語っている。『婦人生活』は四大婦人雑誌、現在廃刊。掲載時タイトルは、話の小箱「水や海」。			
133	テレビ文化の先駆者池田弥三郎	NHK函館放送局開局20周年講演会	1	昭和27年2月2日	写真
134	テレビ文化の先駆者池田弥三郎	NHK番組収録中の池田弥三郎	1	昭和36年10月27日	写真
135	テレビ文化の先駆者池田弥三郎	毎日放送テレビ「八木治郎ショー」	1	昭和46年3月6日	写真
		土曜の朝の人気トーク番組に妻と出演			
136	テレビ文化の先駆者池田弥三郎	大伴家持像前にて歌手で俳優の由紀さおりさんと	1	昭和55年7月	写真
137	テレビ文化の先駆者池田弥三郎	作曲家古賀政男とのデュエット	1	年代不明	写真
138	テレビ文化の先駆者池田弥三郎	芸術選奨文部大臣賞受賞式 歌手で俳優の森繁久彌と	1	昭和55年3月25日	写真
139	テレビ文化の先駆者池田弥三郎	相撲関係者と	1	年代不明	写真
140	テレビ文化の先駆者池田弥三郎	日本レコード大賞の委員も務めた池田弥三郎	1	昭和46年頃か	写真
141	テレビ文化の先駆者池田弥三郎	私だけが知っている	2	平成5年	書籍
		第一集（平成5年8月）・第二集（同年12月） 池田が出演した昭和32年11月から38年3月まで日曜夜にNHKで放映されたドラマ形式の推理クイズ番組「私だけが知っている」のアンソロジー。			
142	テレビ文化の先駆者池田弥三郎	『花も嵐も』（私だけが知っている特集号）	1	平成9年6月1日	書籍
143	テレビ文化の先駆者池田弥三郎	舞踊劇「執炎」台本	1	昭和34年11月3日放送	台本
		NHKテレビドラマにて昭和34年11月3日放送。 出演は坂東寅助、藤間紫、丹阿弥谷津子、馬淵晴子、市川染五郎、市川団子、岸田今日子。 音楽はシャンブル・サンフォニエット、東京放送管弦楽団。 池田弥三郎作、入野義朗音楽、西川鯉三郎振付、吉川義雄監修、三枝孝栄演出、田坂光善装置。			
144	テレビ文化の先駆者池田弥三郎	「日本の女性 女、今むかし」原稿	1	昭和39年	台本
		昭和39年1月1日～6月30日ラジオ放送			
145	テレビ文化の先駆者池田弥三郎	男女共学とその導き方	1	昭和25年	書籍
		慶応義塾中等部編・岩崎書店・昭和25年 慶応義塾中等部教員の共同研究。池田は第二部第一章を担当。刊行を機に「男女共学についての教育実践」の功により、慶応義塾賞を受けた。池田は当時36歳。中等部主事を勤めていた。			
146	テレビ文化の先駆者池田弥三郎	「人に歴史あり」台本	1	昭和46年12月24日放送	台本
		昭和46年12月24日・テレビ東京放送。 池田弥三郎特集の187回の台本。親友で直木賞作家の戸板康二もゲスト出演。戸板康二特集には池田もゲスト出演している。			
147	テレビ文化の先駆者池田弥三郎	「私と広重」台本	1	昭和56年2月15日放送	台本
		昭和56年2月15日 NHK教育テレビ放送 出演は池田彌三郎、藤堂かほる、慶應卒NHKアナウンサー西橋正泰。当時のNHK日曜美術館は、一流の文化人がくつろいだ雰囲気の中で作品を語る「私と〇〇」で構成。『広重の江戸』（原色写真文庫・講談社・昭和43年）の著作もある池田が出演した時のもの。			
148	テレビ文化の先駆者池田弥三郎	日本文学の素材	1	昭和63年	書籍
		『自然の中の素材』『人生の中の素材』『心情の中の素材』と題して、日本人の心がどこへ向いているかを語っている。			
149	テレビ文化の先駆者池田弥三郎	NHK大学講座日本文学の素材	1	昭和53年4月	書籍
150	テレビ文化の先駆者池田弥三郎	『キネマ旬報』新年特別号（「テレビの威力とその責任」（座談会））	1	昭和33年	書籍
		参加者 田中角栄・清水慶子・馬淵威雄・川上行蔵・千葉雄次郎・波多野完治 司会 池田弥三郎			

高岡市万葉歴史館秋の特別企画展 池田弥三郎の世界（令和6年（2024）9月4日（水）～12月2日（日））

コーナー名	資料名	点数	年代	形態
151 テレビ文化の先駆者池田弥三郎	『文芸春秋』臨時増刊（「秋風と名月の旅」〈高岡～大垣〉）	1	昭和48年9月	書籍
	文藝春秋臨時増刊『列島横断 芭蕉・蕪村・一茶の旅』この「おくのほそ道」のエッセイで、池田は、大学を卒業した年、氷見から七尾に折口信夫の案内で旅をしたことや大伴家持についてもふれている。			
152 テレビ文化の先駆者池田弥三郎	『日本史探訪』	1	昭和46年～53年	書籍
	「日本史探訪」はNHKが昭和45～50年に放映した初の定時の歴史番組。テーマごとに大物作家が独自の視点で語る。それを書籍化したものの。池田は、江戸城・曾我兄弟・額田王・清少納言の回に出演。			
153 テレビ文化の先駆者池田弥三郎	日本列島恋歌の旅	1	昭和53年	書籍
	尾崎秀樹・谷川健一・永井路子らとの共著で、『週刊朝日』連載の「男と女の愛憎風土記・日本列島恋文恋歌の旅」（昭和52年1月7日～12月30日）を単行本化したもの。万葉歌人では額田王・狭野弟上娘子など執筆。			
154 テレビ文化の先駆者池田弥三郎	『文芸春秋』十月特別号（「七・七禁止令と帰還兵」）	1	昭和15年10月1日	書籍
	『文藝春秋』十月特集号。「特輯 新体制下の文化と知識人」18巻13号（昭和15年10月1日）25歳の池田弥三郎が友人の「高見澤由良」の名で投稿して『文藝春秋』に掲載された懸賞小説。宝石商の若主人となった帰還兵が、中国大陸で見てきた戦場と、「七・七禁令」に対する宝石商会の人々の一時しのぎの表面的な対応ぶりに、精神的に苦悩する話。			
155 テレビ文化の先駆者池田弥三郎	歩行者天国の歌	1	昭和46年	レコード
	作詞:池田弥三郎 作曲:服部克久 歌:トワ・エ・モア 昭和46年 （旧折口文庫・藤原茂樹提供） ♪銀座京橋日本橋 とんとん東京のストリート 三越デパートからの依頼で作詞。 日本の代表的なメインストリートの魅力を、軽快なフォークソングの歌詞にしている。			
156 テレビ文化の先駆者池田弥三郎	雨の四季	1	昭和42年	レコード
	作詞:池田弥三郎 作曲:山田抄太郎 昭和42年。大正時代の尋常小学唱歌「四季の雨」の詩情にそそられた少年時代の池田の思いが、春夏秋冬の雨の江戸の風情として結実している。			
157 テレビ文化の先駆者池田弥三郎	平野威馬雄著『銀座の詩情』1	1	昭和40年	書籍
	『週刊図書館』掲載 ※平野威馬雄…詩人・フランス文学者。混血児救済運動の主宰。料理愛好家平野レミの父親。			
158 テレビ文化の先駆者池田弥三郎	平野威馬著『銀座の詩情』書評	1	昭和40年ごろか	自筆原稿
159 主なベストセラー	『芸能』	1	昭和30年5月	書籍
160 主なベストセラー	『日本人の芸能』	1	昭和32年6月	書籍
161 主なベストセラー	『日本人の芸能』構成案	1	年代不明	写真
162 主なベストセラー	『日本人の芸能』写真	4	年代不明	書籍
163 主なベストセラー	『日本人の芸能』出版祝いの額	1	昭和33年8月13日	実物
164 主なベストセラー	『はだか風土記』	1	昭和33年2月	書籍
165 主なベストセラー	『日本故事物語』	1	昭和33年12月	書籍
166 主なベストセラー	『日本の幽霊』	1	昭和34年6月	書籍
167 主なベストセラー	『光源氏の一生』	1	昭和39年4月	書籍
168 主なベストセラー	『銀座十二章』	1	昭和40年5月	書籍
169 主なベストセラー	『銀座十二章』構成案	1	年代不明	直筆原稿
170 主なベストセラー	『暮らしの中の日本語』	1	昭和51年3月	書籍
171 主なベストセラー	『万葉びとの一生』	1	昭和53年3月	書籍
172 主なベストセラー	『魚津だより』	1	昭和57年4月	書籍
173 主なベストセラー	『魚津だより』構成案	1	年代不明	直筆原稿
174 主なベストセラー	『日本文学の素材』構成案の直筆原稿	1	年代不明	直筆原稿
175 主なベストセラー	「日本文学の素材」台本	1	昭和53年	台本
176 主なベストセラー	池田弥三郎著作	130点ほど	年代省略	書籍
177 輝かしき栄光の受賞	魚津時代の池田弥三郎のスケジュール帳	2	昭和55年、56年	実物
178 輝かしき栄光の受賞	池田弥三郎愛用国語辞書『言海』	1	昭和2年	書籍
	日本初の近代的国語辞典。昭和2年泰明小学校卒業の時（池田12歳）に賞として授与された。書斎机上の座右の一書となる。			
179 輝かしき栄光の受賞	愛用の文房具	11	年代不明	実物
	万年筆はモンブラン。時計つきのライターで、周囲に気を遣わせないように時間を確認した。			
180 輝かしき栄光の受賞	池田弥三郎愛用名刺ホルダー	1	年代不明	実物
	富山の人々の名刺も多数ある。堀美智子氏は、36年高岡市長を務めた堀建治氏の妻で、『北陸を語る』で池田と書家青柳志郎氏と共に鼎談。			
181 輝かしき栄光の受賞	第17回放送文化賞授賞式の録音テープ	1	昭和40年	実物
182 輝かしき栄光の受賞	NHK放送文化賞パッチ	1	昭和40年	実物
	第17回 昭和40年度			
183 輝かしき栄光の受賞	放送文化賞授賞式芳名録と関係資料	3	昭和40年	実物
184 輝かしき栄光の受賞	「池田弥三郎先生を囲む会」関連資料	はがき一箱	昭和55年3月	はがき
	慶應義塾大学定年退職、洗足学園魚津短期大学赴任、著作集受賞祝賀を兼ねて、昭和55年3月15日に東京会館で開催された。池田66歳。			
185 輝かしき栄光の受賞	芸術選奨文部大臣賞受賞時の祝電	点数不明	昭和55年3月	実物
	昭和55年3月、『池田彌三郎著作集』により池田弥三郎は芸術選奨文部大臣賞を受賞。多くの祝電が池田家に届けられた。			
186 輝かしき栄光の受賞	池田弥三郎著作集	10	昭和55年	書籍
187 輝かしき栄光の受賞	入江相政より	2	年代不明	封書
188 輝かしき栄光の受賞	池田弥三郎紫綬褒章	1	昭和51年	実物
	民俗学・芸能史研究者で初の受賞			
189 輝かしき栄光の受賞	叙勲時の下賜品の記	点数不明	昭和57年	実物
190 輝かしき栄光の受賞	相模関係者からの手紙	1	年代不明	実物
	千代の富士・北の湖など、名だたる力士たちからの招待状・感謝状など多数。			
191 輝かしき栄光の受賞	横綱審議委員会パッチ・感謝状	2	昭和52年～57年	実物
	昭和52年7月～57年7月にかけて委員をつとめた			
192 輝かしき栄光の受賞	従四位の位記	1	昭和57年	実物
193 輝かしき栄光の受賞	勲二等瑞宝章	1	昭和58年	実物
194 輝かしき栄光の受賞	勲記	1	昭和59年	実物

高岡市万葉歴史館秋の特別企画展 池田弥三郎の世界（令和6年（2024）9月4日（水）～12月2日（日））

	コーナー名	資料名	点数	年代	形態
195	折口信夫の学を継いで	『ひと』第一号		1 昭和9年2月	書籍
		池田弥三郎の「一茶序説」を収録する。折口信夫に出会う前の池田の興味の方向が分かる。			
196	折口信夫の学を継いで	池田弥三郎似顔絵折口画		1 年月不明	自筆原稿
		折口信夫が描いた池田弥三郎の似顔絵。顔立ちが若いため、戦前に書かれたものと思われる。			
197	折口信夫の学を継いで	折口ノート		1 昭和12年	自筆原稿
		昭和12年。大正5年に設立された郷土研究会（國學院大學）における折口講義の筆記ノート（池田弥三郎記）。			
198	折口信夫の学を継いで	折口ノート断片		1 昭和23・24年	自筆原稿
		昭和23・24年。折口信夫が出演したNHKラジオ「神道の時間」「短歌と言葉」の池田弥三郎による筆記記録。			
199	折口信夫の学を継いで	折口信夫「女帝考」原稿		1 昭和21年10月初出	自筆原稿
		初出『思索』秋季号・青磁社・昭和21年10月。（『折口信夫全集』20巻所収）			
200	折口信夫の学を継いで	池田弥三郎「海神山神論」原稿		1 昭和57年1月初出	自筆原稿
		昭和57年1月24日から執筆 所収『日本文学伝承論』（中央公論社・昭和60年） 海のすぐそばに山がある日本列島を「島山」ととらえた折口語彙から、はじめてこの国の神の概念を論じたもの。未完。			
201	折口信夫の学を継いで	第三回万葉旅行記		2 昭和10年	実物
202	折口信夫の学を継いで	第三回万葉旅行アルバム		1 昭和10年	実物
		慶應義塾大学国文学科の学生17名が自作した万葉旅行記。参加学生に配布された。当時の飛鳥・吉野・紀伊の様子が撮影されており貴重。上之巻・下之巻・アルバムの計3冊。			
203	折口信夫の学を継いで	第三回万葉旅行アルバム写真		6 昭和10年	複製
204	大切な人との手紙	叔父池田大伍からの手紙		1 昭和17年	封書
		池田が『手紙のたのしみ』に掲載した戦地にいる甥の弥三郎を暖かく励ます手紙。開戦直後の勝利を信じる一知識人の受け取り方を率直に示しているという。第4信までであるが、第1信は砲弾運送隊の弥三郎のもとまで届かなかった。大伍は、第4信直後、急性肺炎で逝去。			
205	大切な人との手紙	新譯支那童話集		1 第5版、昭和5年7月	書籍
		初版:大正13年12月、5版:昭和5年7月 富山房 銀次郎は大伍の本名。早稲田大学では英文学を専攻したが、独学で中国の古典を勉強。天金の広報誌『ひと』連載の「元曲」の翻訳が、中国古典文学の権威である吉川幸次郎の目にとり、東洋文庫から刊行。			
206	大切な人との手紙	明治製菓広報誌『スミート』第40巻3号		1 昭和14年7月15日	書籍
		弥三郎の親友で後に直木賞作家となる戸板康二が編集を担当していた明治製菓の広報誌にも、池田大伍は「西洋菓子は何時から」というエッセイを寄稿している。			
207	大切な人との手紙	西脇順三郎からの礼状・返信		1 はがき礼状・昭和54年10月21日、返信封筒昭和58年8月1日	はがき 封書
208	大切な人との手紙	小泉信三からの手紙		昭和32年6月23日付・昭和40年5月28日付	封書
		池田の著作『日本人の芸能』『銀座十二章』への礼状で、『手紙のたのしみ』で紹介されたもの。小泉は45歳で慶應義塾の塾長となった経済学者。晩年の福沢諭吉と暮して薫陶を受けた人物。海軍の息子信吉への手紙も同著掲載。			
209	大切な人との手紙	富田正文からの手紙		1 昭和46年3月14日	封書
		富田は塾歌の作詞者。長文の封書は、『勝海舟全集』に福沢諭吉と勝海舟について池田が書いた文章への懇切丁寧な教示。池田は『手紙のたのしみ』に取り上げて「後輩としての幸せをしみじみ感じた」と述べている。			
210	大切な人との手紙	加藤守雄からの手紙		1 はがき昭和47年9月18日、封書書簡昭和47年2月4日	はがき 封書
		はがきは、池田の記述の誤りを指摘。封書書簡は、昭和47年1月刊の岩田正『釋迢空』（紀伊国屋書店）・中村浩『若き折口信夫』（中央公論社）に対し、「（折口に対して）好意のありすぎる書き方」と、親友ならではの忌憚ない感想を送っている。			
211	大切な人との手紙	井筒俊彦からの手紙		3 年代不明	はがき
212	大切な人との手紙	井筒俊彦からの手紙		1 昭和56年1月19日	封書
		『手紙のたのしみ』で自分の書簡を取り上げることを承諾した手紙で、魚津に住む池田に宛てたもの。			
213	大切な人との手紙	戸板康二宛満州の池田弥三郎からの軍事郵便		1 昭和17年1月17日	はがき
		出征中の昭和17年1月17日付の軍事郵便では、叔父池田大伍の死を聞き「あんなに暖かない・人はいなかった、私には特にかへ難い人でした」と嘆いている。			
214	大切な人との手紙	戸板康二からの手紙		1 はがき昭和47年3月17日・3月30日消印。封書年代不明	封書
		はがきは本の礼状で、「秀吉がサル、家康がタヌキというのはいつ誰がいいはじめたのか、知りたいものです」とある。封書は池田の長野の別荘へ送ったもの。			
215	大切な人との手紙	戸板康二宛池田弥三郎からの手紙		1 昭和26年5月25日、昭和30年9月3日	封書
		昭和26年5月25日消印のはがきは、万葉集に関する講義での「藤原夫人」に関する反応について。 昭和30年9月3日消印のはがきは、東北の芸能採集中に八戸の旅館から送ったもの。			
216	池田弥三郎社会と学問の交差点	「寅年の秀才児」切り抜き	1	『萬日報』大正15年1月	複製
216	池田弥三郎社会と学問の交差点	「妙な話」切り抜き		1 『三越落語会プロ』昭和37年6月	複製
217	池田弥三郎社会と学問の交差点	「電気を駆使する時代」切り抜き		1 『The Hitachi』昭和37年6月	複製
218	池田弥三郎社会と学問の交差点	「美しい言葉とは」切り抜き		1 『読売新聞』昭和40年10月	複製
219	池田弥三郎社会と学問の交差点	「私と古典」切り抜き		1 『東京新聞』昭和42年2月	複製
220	池田弥三郎社会と学問の交差点	「教えられる学問の態度」切り抜き		1 『産経新聞』昭和42年6月	複製
221	池田弥三郎社会と学問の交差点	「私の新婚時代」切り抜き		1 『週刊現代』昭和42年6月	複製
222	池田弥三郎社会と学問の交差点	「ホーム・ライブラリー」切り抜き		1 『南日本新聞』昭和42年10月	複製
223	池田弥三郎社会と学問の交差点	「わが若き日の詩歌」切り抜き		1 『明木』昭和43年3月	複製
224	池田弥三郎社会と学問の交差点	「うつりゆく時」切り抜き		1 『青少年』昭和44年3月	複製
225	池田弥三郎社会と学問の交差点	「有名な表札拝見」切り抜き		1 『主婦と生活』昭和44年8月	複製
226	池田弥三郎社会と学問の交差点	「氷の黒焼きをおあがり」切り抜き		1 『母の一言』昭和45年2月	複製
227	池田弥三郎社会と学問の交差点	「一九七〇年代の課題」切り抜き		1 『中央公論 第1000号』昭和45年12月	複製
228	池田弥三郎社会と学問の交差点	「中学生のころ」切り抜き		1 『富士家庭教育』昭和45年9月	複製
229	池田弥三郎社会と学問の交差点	「私とすまい」切り抜き		1 『たのしいすまい』昭和46年4月	複製
230	池田弥三郎社会と学問の交差点	「玉川に住んで」切り抜き		1 『週間朝日』昭和46年11月	複製
231	池田弥三郎社会と学問の交差点	「育ちのちがう夫婦」切り抜き		1 『暮らしの設計』昭和47年2月	複製
232	池田弥三郎社会と学問の交差点	「朝のラジオから一日が始まる」		1 『NHKあなたのダイアル』昭和52年3月	複製
233	池田弥三郎社会と学問の交差点	「我が転機」		1 『NOMA プレスサービス』昭和52年3月	複製
234	池田弥三郎社会と学問の交差点	「折口学発展に苦心」		1 『週間朝日』昭和53年3月	複製
235	池田弥三郎社会と学問の交差点	「明けましてタレント廃業宣言」		1 『読売新聞』昭和54年1月	複製